

千里の鳥・万博の鳥(第68回)「シジュウカラの求愛給餌」(2018年5月)

シジュウカラは体長14.5cmとほぼスズメぐらいの大きさ、頭頂は黒い羽毛で覆われ、頬および後頸には白い斑紋が入る。喉から下尾筒にかけての黒い縦線が、雄は太く雌が細いので、雄雌がわかりやすい小鳥である。

シジュウカラは日本・朝鮮半島・中国・ロシア極東、そして欧州などに留鳥として分布する。大阪近郊では山地だけでなく市街地の公園の林でも繁殖しており、人懐っこく近づいてくれるので、良く観察できる。

シジュウカラなど鳥たちは、繁殖期のペア形成時に、写真のように雄から雌へ餌を与える行動が見られ、これを「求愛給餌」と呼んでいる。写真は先月18日に写されているので、求愛給餌の成功でカップルが誕生し、雌が巣で抱卵中か、既にヒナが生まれ雄雌が次々餌運ぶ、大忙しの日々を送っていると予想される。

シジュウカラは1羽で1年間に12.5万匹もの昆虫を捕食するというドイツの報告がある。繁殖期・非繁殖期を問わずほぼ一年中、昆虫を主食としているシジュウカラは、木の葉が昆虫に食べられる被害を防止するなど、生態系の一員として昆虫が増えすぎないように調整する役割を果たしている。

また、シジュウカラは今の繁殖期、家族単位で暮らしているが、非繁殖期になるとヤマガラ・エナガ・メジロ・コゲラなどと一緒に群れて行動するようになり、「カラの混群」と呼ばれている。里山・里地に住むカラの混群は、一緒に行動しているほうがタカに襲われたときなどに危険を察知しやすいからと言われている。

最近、人間だけでなくシジュウカラも独自の「文法」を持ちコミュニケーションをしている可能性の高いことを、京大鈴木俊貴博士が明らかにした。

シジュウカラは約170種類の鳴き方をするが、「ピーツピ」という鳴き声は周囲を見回し警戒する時に、「ヂヂヂヂ」は仲間を呼び寄せる時に使われているとのことである。「ピーツピ・ヂヂヂヂ」という鳴き声では警戒しながら仲間が集まる一方、「ヂヂヂヂ・ピーツピ」では何も行動しないことを確認した。シジュウカラは文法に沿った鳴き声を複数組み合わせているとのこと、今後どこまでわかるのか、研究の進展に興味津々である。

①日本野鳥の会大阪支部主催

万博公園定例探鳥会(5月)

太陽の塔の内部公開を契機に、万博公園への入場

者が多くなっている中、新緑真っ盛りの園内では留鳥の繁殖が始まっている。今月はシジュウカラ・エナガなど留鳥の子供たち、そして遅れて渡っているキビタキなどの夏鳥との出会いを楽しみに、万博公園内を一巡する予定。

日時 5月12日(土)9:30~15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡

服装 ハイキングと同じ。

参加費 大阪支部会員100円・非会員200円

他に、万博公園入園料250円は必要

②吹田野鳥の会主催

淀川(海老江干潟)探鳥会

吹田市では見ることのほとんどできない春の渡りのシギ・チドリを、淀川下流の海老江干潟で観察する。この季節の干潟には、ユチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギなどが休んでいる。

シギ・チドリ観察は干潮時が良いことから、探鳥会開始時間は10:30と通常より遅くなっているので、ご注意ください。

日時 5月14日(月) 10:30~13:00

集合 阪神本線・淀川駅(梅田より普通電車に乗り3つ目の駅)

解散 海老江干潟周辺

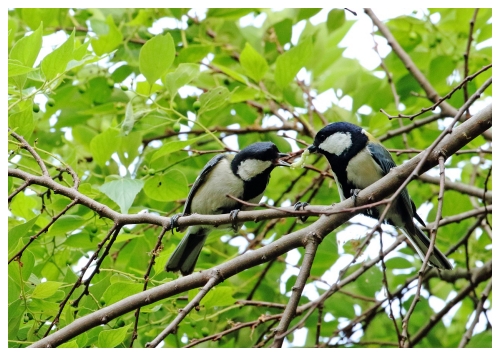
担当 田中 宏氏他

持ち物・服装 日本野鳥の会定例会と同じ

干潟は日陰がないので、日よけ帽子必携

参加費 吹田野鳥の会会員0円・非会員200円

問い合わせ 090-6901-1425 平(ひら)軍二へ



種名:シジュウカラ

撮影日:2018年4月23日

撮影場所:万博公園

撮影者:有賀憲介